の気象サービスへの全ての社会的ニーズに気象庁は何らかの形で対応する責任を負っていると考える．しかし自ら直接的に実施する仕事は，その一部にすぎない．全ニーズに対し全サービスシステムを如何に有効に配置し，かつサービスシステムの中核的役割りを果すかが気象庁の大きな課題であろう．その意味で気象庁のサービスとして特に重要なことは，基本的な観測，通信，予報システムの整備のみならず社会的に開かれた情報ネットワークの整備，社会的に開かれた，技術開発および社会的に開かれた人材養成であると考える．

GARP NEWS

GARP/MONEX 勉強会のお知らせ

国際地球観測特別委員会
GARP 分科会

周知のように，GARP にはいくつかの Subprogram があり，AMTEX（気団変質観測計画）もそのうちのひとつです．（詳しくは，浅井富雄，1973: GARP に関する最近の動向（GARP News），天気，20，364-368 参照）．他の Subprogram の中の MONEX について，GARP/JOC（合同組織委員会）から日本の参加を要請してきております．

MONEX とは Monsoon Experiment（モンスーン観測計画）のことで，インドが提案しています．この実験観測計画の主目的は，アジアの南西モンスーンの開始をシミュレートできるようなモデルの開発について，いろいろ研究する所にあります．

この目的のために，1977年に予定されている FGGE 中の特別観測期間のひとつを，モンスーンの開始時（5月～6月）にあわせることと，モンスーンに関連した重要な中規模現象と海気相互作用の過程にしぼった実験観測と理論研究を行うことのふたつが計画されています．

MONEX の提案に対して，国際的には既に第1回の JOC Study Group Conference on MONEX が，昨年3月ソ連のイエレバンで開かれています．また，本年1月のオーストラリアにおける IUGG の総会でも，非公式のモンスーンに関する集会が開かれるときいています．更に，本年3月インドのニューデリーで，第2回の JOC Study Group Conference on MONEX が予定されていて，日本からの参加も要請されています．

日本の現状としては，直ちに MONEX の観測計画に参加するとはいえない情勢にありますが，アジアのモンスーンが梅雨をはじめとして，わが国の気象に密接に関連することから考えても，また最近の世界的な研究動向のひとつとして，大気大循環の季節変動の具体的なあらわれとしてモンスーンが注目されはじめていることをみても，この機会にモンスーンをめぐる気象学的問題点を明らかにすることは意味があると思います．

そこで，当分科会の中に study group〔スタッフ：朝倉（気象庁），新田（気象庁），広田（気研），オブザーバー：岸保（東大）〕を設けて検討した結果，総観解析，力学解析，雲物理，境界層，放射過程，衛星気象，数値シミュレーションなどの分野を中心に，モンスーンをめぐる諸研究テーマについての問題点の指摘と情報交換のための集会を開くことにしました（これを MONEX 勉強会と呼ぶことにします）．予定としては，

日時：**3月7日（木）13時30分**から
場所：気象庁内（会場は2月中旬に決定）

を考えています．

関心のある方々がふるって参加下さることを希望します．なお，会場その他についての連絡は

気象庁予報部電子計算室　新田　尚
Tel. (03) 212-8341　内線 449

まで．